

いのち
生命の水 うるおす未来

アジアンネット

JAFS

NEWS & REPORTS

2022年冬

148



特集

大流行、学びの場を痛撃 コロナ禍の中で⑦



「巻頭言」自立と自律－人類共通の目標 02

特集＝コロナ禍の中で⑦ 04～11

大流行、学びの場を痛撃—インド、コスモニケタンの苦悩／困窮、バングラでも／「見捨てるな」マニラのストリートチルドレン支援／インドの農村・スラムに物資配る／カンナンガラさんを悼む

第7回アジア・ユースサミット詳報 12・13

第2回日本語スピーチコンテスト 14・15

アリヤラトネ博士から連帯メッセージ 15

プラごみ一掃 ブルー・オーシャン作戦 16～19

「井戸ができた村」 20～23

ネパール報告 24・25

新入会員紹介・領収報告 26・27

「JAFSプラザ」＝国内の活動 28～30

復活グローバルフェスタに参加しました／紫式部の石山寺を訪ねる／第3期アジア市民大学スタート／留学生招き交流茶話会／幕末・維新の伏見と酒蔵を歩く／ネパールの魅力とごみ問題を知るオンラインツアー

「環境コラム」 31

アジア協会アジア友の会とは

アジアに井戸を贈ることから地域の自立を目指す国際協力団体（NGO）です。1979年に大阪で設立。誰もが生まれてきて良かったと思える社会を目指し、2021年3月現在、井戸建設（累計2150基）や植林（累計257万本）、子ども教育支援を中心に活動しています。全国都道府県認可の社団法人取得第1号団体です。2012年4月1日からは、内閣総理大臣の認定を受け、公益社団法人になりました。

海外との交流・協力活動は、アジア18カ国（インド、インドネシア、バングラデシュ、タイ、マレーシア、フィリピン、スリランカ、ネパール、韓国、カンボジア、シンガポール、ミャンマー、ラオス、中国、ベトナム、モンゴル、パキスタン、アフガニスタン）、さらに西アフリカのブルキナファソにも広がり、70の現地提携団体を通じ、友情のネットワークが形成されています。

日本国内でも、各地でチャリティプログラム、自然環境プログラムや、人材育成、留学生交流など行っています。

本会へのご寄付は、寄付金控除の対象です

JAFSは内閣府より公益社団法人としての認定を受けています。JAFSへの寄付金や会費（社員会費は除く）は、申告によって、所得税、法人税、相続税について税制上の優遇措置（寄付金控除）を受けることができます。

確定申告の際、税額控除、所得控除のいずれか有利な方を選択できます。本会発行の領収書を添付して申告してください。法人税は損金の額に算入することができます。相続税は最寄りの税務署などにお問い合わせください。

巻頭言

2019年末から各地に広がって行ったコロナ感染は今や全世界を覆っています。

このコロナ禍が、見方によっては、世界の人々に生存の連帯感を与えたのではないかと思います。全ての争いは、人間の欲望の争いです。エゴと言う人間システムから産み出された争いです。このコロナのゆえに人類そのものの生存が危なくなってきたとしたら、崩れ行く地盤の上でのお互いの利益争いは無意味です。地球温暖化や環境問題が、そのいい例です。

「自立」と「自律」人類共通の目標



村上 公彦
アジア協会アジア友の会
創設者・専務理事

す。その取り組みを実現させるために、まず具体的な生活上の問題である飲料水の確保という具体的な問題から始めたのです。この活動は、「井戸を贈る運動」として広がりました。お陰で、多くのアジアの仲間がこの運動を通じて集まってきました。そこで、アジア各地の仲間と共に、貧困からの脱却は、貧困状態にあると自覚する者たちが、当事者意識をもってその状態からの脱出する方法を考え、実践する努力なしには

実現しないことを確認しあったのです。

世界は今、SDGsを始め、地球環境問題が強く意識され、その実現に向けて様々な取り組みがなされ始めています。人間システムの見直しが必要であるということです。出遅れ感がありますが、最後まで希望をもって最善を尽くす努力が必要です。人類の生存のために、共に手を取り合って、生存の術を考えていくことは必要な事で、互いに敵意という心の壁を乗り越えて、共同していかなければ実現しない問題です。そのためには相互の自律が求められます。本会が長年取り組んできた課題の中心に、アジアの貧困問題があります。

自助努力の中で、大事なことは、「自立」と「自律」です。自立は、自分の力で自分なりに努力して生きていくことです。他人の助けをあてに生きることでは生きても長続きしません。さらに、本当の自立を目指すためには、各自の生き方に自律が求められます。自律とは不必要な欲望を拡大しないこととお互いの規律を遵守することです。

●プロフィール●

むらかみ・きみひこ 1941年大阪府生まれ。65年同志社大学大学院修士課程修了。65～67年インド・バンガロールUTC留学。70～71年スイス・ジュネーブ大学エキュメニカル研究所留学。79年JAFS創立。2009年タイ国立ランパン大学より名誉博士号授与。現在、日本キリスト教団覆屋川教会牧師。

日本が開国した当初、多くの西洋人が商機を求めて日本にやってきました。そこで彼らが目にしたのは、貧しい日本の庶民の姿でした。しかし、これまで彼らが植民地で見えて来た多くの貧しい庶民とは違うことを発見したのです。日本の庶民は貧しい、だが、貧困ではないと感じたのです。暮らしぶりは大変貧しいが、それぞれの立場なりに生きる気概と誇りを持って生きているということが発見したのです。この生きる気概が大事なのです。貧しいゆえに身も心も貧しくなり、人間らしさを失うのは危険です。

JAFS 会員綱領
私たちは、世界の平和と人間の基本的人権を守るために人々との「友情と信頼」に基づく「理解と協力と連帯」の輪をアジアと世界に広げます。

一、より人間らしい地球社会の創造をめざします。

一、アジアと世界の人々の幸せに奉仕します。

一、地球の自然環境を大切に守ります。

一、生活の無駄を省き、地球資源を大切にします。

一、これらの奉仕活動を通して、自分と他人の生命の価値を高めます。

以上

大流行、学びの場を痛撃

インド、カルナータカ州ビジャプールにある日印友好学園コスモニケタンは、2020年3月にインド全土が新型コロナウイルス感染症の流行でロックダウンとなつて以降、一部の授業を始めたかと思うと、すぐにまた中止を余儀なくされるということが続きました。上級生だけが教室ではなく校庭の木の下で授業を受けたり、生徒の住む村に教師が出向いて宿題のプリントを配るなどもしました。ようやく21年10月から授業が始まりました。

ロックダウンの間、親たちは仕事ができず、元々貧しい家庭がいつそう貧しくなりました。子どもが働かねばならなくなって学校を続けられなくなる、一家あげて隣の州へ仕事を求めて移住して公立校へ転校する、というケースがとて多くなっています。中には、まだ12歳なのに結婚させられた女生徒が2名いました。インドでは児童婚は法律で禁止されていますが、貧しい農村では今も行われているのです。

学園の生徒数もかなり減りました。12歳で結婚した生徒の親は「7年生

終了の証明が欲しい」と言ってきました。少しでも教育を受けたことが証明できれば、職を得る足になると考えたのです。学校は何とか通学を続けるよう説得しましたが、応じてもらえませんでした。このような証明書を出すかどうか検討しているところだそうです。

女子をバスで町の高校まで通わせるのはとても危険なため、学園も、親たちから要望の強い、女子のための高校を現地に開設する計画を立て、州政府に設立認可申請をする運びになっていました。ところが、コロナ禍で入学希望者が集まらないことがわかって頓挫。コロナ対策の消費もかきみ、学園の財政は危機的になっています。子どもたちの人生だけでなく、学園の将来計画も狂ってしまうような事態に陥っています。

コロナ禍の期間にどのようなことが起こっていたのか、先生と生徒たちにレポートを書いてもらいました。

（編集スタッフ 大本和子）

親を助けに学校やめ 女子は12歳で結婚も

S・S・ウエンタマリ

日印友好学園小学校校長

生徒たちがいない学校は、静寂に満ちていました。コロナ感染症は全ての子どもに大きな影響とショックを与えました。子どもたちは学校に来ると、本を読んだり、遊んだり、法律を学ん



だり、ダンスしたり、歌ったり、学校中走り回ったり……。このような活動なしに子どもは成長しません。どの子も親が言うことなんか聞きもしないけれど、学校の

先生の言うことは実行します。一日の大半を学校で過ごすのですから。

オンライン教育になると、彼らの学習は止まってしまいました。学校の生徒の大部分は貧しい家庭から来ており、携帯電話を持っていないからです。何人かの生徒は、貧しさゆえ、他人の家の羊を世話するために学校を去り、女生徒は結婚し、ある者は働くために学校を去りました。教師たちも、ステイホームを余儀なくされました。

やっと7年生と6年生の授業が再開し、教育が始まりました。子どもたちの学力は下がってしまっていました。授業再開は生徒と親の喜びでした。新しい人生が始まったのです。

親たちは子どもが家にこもっていることを心配していました。でもその心配は終わりました。教師たちは清潔を保ち、毎日体温を測って記録し、マスクをするように、清潔な水を飲むようにと伝えていきます。

2021年10月25日から1〜5年生の授業がスタートしました。この良い知らせをシェアできることは、とてもうれしいことです。子どもたちの将来が良いものであるように、ともに祈りましょう。

コスモニケタンで学ぶ子どもたち。一部の授業はやっと再開されたが、学園の将来には課題と不安が山積みだ。カルナータカ州ビジャプール

I・C・パタナシェッティ

日印友好学園中学校教師



半年ほど授業がなかっただけで、子どもたちの学力は壊滅的な影響を受けました。生徒たちが学校に来れば、教師が学習を支援できますが、家では何一つ新しいことを学べません。長い間家にいると、新しいことを学べないだけでなく、過去に学んだことも忘れてしまいます。

初めの頃、子どもたちは休校を受け入れました。親たちは、子どもが長く学校から離れるのを心配して度々学校に来たのですが、そのとき親が子どもに接する態度を見ると、学校を一日も早く再開するのが最善と感じました。

オンライン教育はネット環境の問題があり、満足いくものではありません。私が教えるのは第一言語であるカンナダ語です。カリキュラムや授業計画をメモし、著名な詩人や作家の文学の紹介などをして、例題をやってみる試みなどしますが、スマートフォンを持っていない子どもにとっては、このような授業について行くのは困難です。そのような状況でも、生徒たちは試験を視野に入れて長いメモを取ることで課題に取り組みました。

生活が大変苦しい中、どれだけ積極的に学ぶかは、子どもたちの将来に影響を与えます。知的意欲が著しく損な



われると、彼らの教育に影響を及ぼします。私たちはコロナの規制の下、子

どもたちの家を訪問し、再開後の学校に行かせるよう親を説得しています。

市場が閉じて野菜売れない 仕事がない。葉買うお金ない オンライン授業の携帯ない

アルン・ワムバーゼ 6年生

私の父親は農民で、お金がありません。野菜を売る市場は閉じられ、野菜



は腐ってしまいま
ず、私たちには食
べるものがありま
せん。作物がやられてしまったので、
大変困っています。

私たちはコロナワクチンを買うお金
がありません（事務局注…現在は無料
ですが、このレポートを書いた頃は
有料で200^{ルピー}＝約228円しまし
た）。私たちの親せきは、ワクチン
を
買うお金がないどころか、自分の農地
を売ってしまつて収穫できないため、
食べるものありません。

ビジャプール地区では多くの牛や動
物が、飼料がないため死にました。死
んだ動物は腐って菌をまき散らし、多
くの牛や動物が感染しました。多くの
子ども、高齢者女性たちは、病院に運

ばれても食べ物や酸素がないため死に
ました。助けをお願いしたいです。

アクシャクマール・ジャドガー 6年生

私の父親はミルク売りです。家族を
養うために懸命に働いています。しか
し父はコロナ感染の恐怖からミルク売
りをストップしたので、高血圧の祖母
の薬を買うお金がありません。ミルク
の販売元や父の顧客が少し助けてくれ
ました。母も働いていたのですが、多
くの困難に直面していました。さらに
この1年間、学校も廃墟のようになって
いました。両親と、このロックダウ
ン期間頑張ってくれていた警察官に感
謝したいと思います。

バサワラジ・ビラダル 6年生

最初のロックダウンのとき、何をし
たらいけないのか、何をしたらよいの
かわかりませんでした。庭で野菜を育
てましたが、売ることができず、お金



もらいました。父は1日450^{ルピー}（約
688円）稼ぎます。6人家族がこの
少ない稼ぎで暮らしています。

再度作物を植えても、長雨で腐って
しまいました。このような状態が続く
ことは、農民にはとても厳しいこと
です。そのためビジャプールの農民は
午前6時から10時までの間、野菜を
許可を得て、わずかばかりのお金を
得ることができました。

授業が再開されたとき、父は私を学
校にやろうとして、借金をして通学カ
バンや教科書、洋服など買いました。
この困難な時期にあつても私は何とか
学校を終えたいと思っています。一生
懸命勉強をして、良い職について将
来、父母を幸せにしたいです。

ナクサ・カレ 8年生



ロックダウン中、たくさん問題を抱
えました。熱が出て健康状態が悪くな
りました。恐怖に
支配されました。

両親はあちこち
で仕事をしていま
したが、ロックダ
ウン中は交通手段がなく、仕事があり
ません。食料がなく、ちゃんと食べら

れませんでした。

勉強する時間ありませんでした。
ロックダウン中、学校も十分に授業は
行われませんでした。学校から言われ
ているように勉強しようと思つて座る
のですが、怠けてしまいます。オンラ
イン授業を受けたくても、携帯電話も
インターネットもありません。結局、
家では全く勉強しませんでした。
日雇い労働者の貧しい家族は多くの
ものを失いました。病気になるでも、
病院へ行く交通手段もお金もありませ
ん。農民は多くの問題に直面していま
した。市場で野菜を売ろうにも、市場
で見張っている警察官は市場に来るこ
とを許さず、結局、野菜は腐って売り
物になりません。

結論として、私たちのような貧しい
者は仕事ができなくなり、いつそう苦
しくなりました。

タヌジ・カルデ 7年生



私の家族は貧しく、ロックダウン期
間には多くの困難に直面しました。こ
の期間、学校で教
育を受けることが
できませんでし
た。コロナは貧し
い人間の人生を食
い尽くしました。

オンラインで授業を受けなければなら
ないとしても、携帯を持っていない
という問題があります。たとえ携帯を

持っていたとしても、私は働き場所を
探さなければならなかったのです。

両親は私を他人の家の羊番に行かせ
ました。両親は仕事が見つからず、私
が稼ぐ必要があつたのです。羊に必要な
薬を買うお金はなく、羊は病気になる

つて朽ち果てました。家族は困窮し、
私たちは食事をともに食べることで
できず、薬は買えず、ワクチンを受け
るお金ありません。

学校も順調ではありません。学校が
始まつてもパンデミックが日に日に拡

コスモニケタンの子どもを支援する

教育里親募集中

JAFS事務局（担当…大本）
電話…06・6444・0587

大し、また学校は閉じられました。お
祭りを祝いたくても、寺院は閉まつた
ままです。ロックダウン下ではお祭り
はなく、学校もなく家にじつとしてい
るのにも飽きました。

家族の食べ物買えず高利の借金 終了試験の準備はかどらず不安

子どもたちに
インタビュー

バングラデシュでは、コロナの影響で2020年3月17日から21
年9月11日まで、すべての教育機関が閉鎖されました。このよう
な状況下の子どもたちに現地提携団体BDPは、「コロナ禍で直面し
ていた問題は何か」をインタビューしました。

マイムナ・カンダカル 8年生



コロナの影響は、私の勉強をたくさん妨
げました。長期間学校に行くこと
ができず、先生や
友達に会ったり、
友達と遊んだりす
ることができませ
んでした。とても

がつかりしました。
ロックダウン中、都市部や裕福な生
徒はスマートフォンやタブレットを利

用して、オンライン授業に参加してい
ました。私の父は私のスマートフォン
を買うことができず、私はオンライン
授業に参加できませんでした。

国営放送で教育番組が放送され、私
はそれに参加していましたが、停電の
影響も頻繁にあり、授業にとっても支障
が出ました。そのため、私は家で独学
で勉強していました。

毎日コロナで多くの人が亡くなって
いると聞いて、とても不安でした。何

千もの人々がコロナに感染し、病院の
ベッドに空きがないため、治療を受け
ることなく亡くなっています。私の周
りでもたくさんの方がコロナに感染し
ました。私はいつも出かけるとき、マ
スクを着用し、ソーシャルディスタン
スを保つようしていました。

コロナの影響は、私の家計に大きな
打撃を与えました。ロックダウン中、
全てのお店が閉まり、父は自分のお店
を開けることができませんでした。そ
のため、家族の収入はありませんでし
た。食事は1日2回だけとり、なるべ
く支出がないようにしていました。父
は高金利でお金を借りていました。

ヤシン・ティン・イスラム 10年生
1年半以上、学校が休校し、勉強に
とても大きな影響が出ました。学校に
行くことができず、一日中家に居なけ
ればならず、精神的に病んでしまいま
した。

先生がオンラインで授業をしたり、
テレビで授業を放映したりしていまし
たが、私はスマートフォンを持ってお
らず、ネット環境もないため、オンラ
イン授業に参加することができません
でした。私の村の裕福な友達だけがオ
ンライン授業に参加していました。私
は精神的なショックを受けました。

コロナが流行中、政府は何回もロッ
クダウンをしたため、父は働くことが
できず、収入はありませんでした。私
たちは食糧危機に直面し、両親は高金
利でお金を借りました。
モスクにお祈りに行けず、生活にも
大きな影響を与えました。イード祭と
呼ばれる大きな宗教行事も家で静かに
行われ、友達や親戚に会えませんでした。
例年であれば、新しい服を着て祭
を祝いますが、今年は経済的な困難に
直面しているので、服を新調すること
ができませんでした。

◇
ヤシンくんは卒業を控え、中期中等
教育修了試験（SSC）を受験する学
年です。コロナの影響で試験は何回も
延期されていましたが、21年11月15日
に無事行われました。

「見捨ててるな」続々と支援

コロナ禍の中で⑦ マニラのストリートチルドレン



日本から学用品贈り 家で学ぶ環境づくり

デニス・バトイ

アジア社会科学院副学長

コロナによって世界中が、そして日本も大変なときに、フィリピン・マニラのストリートチルドレンに教育支援を継続して下さっていることに、心より感謝申し上げます。JAFS京都地区会をはじめ、ご支援くださった皆さまの温かいお気持ち、絶え間ない努力により、97人の学童に学習に必要な学用品（テابل、ノート、鉛筆、その他）を贈ることができました。

コロナによって人々の生活は大きく変化しましたが、子どもたちが勉強を続けるという夢を、止めることはあつてはなりません。状況によって学校の

贈られた学用品を使い、ベツトと天井の間の限られたスペースで勉強する兄妹Ⅱマニラ市サンアンドレス

制度は変わりますが、勉強して身につけていくという目標を達成するため、子どもたちも私たちも、まい進してまいります。

コロナによって2020年から21年のスケジュールを含む学校のシステムが変更されました。感染状況によりコミュニティごとに移動が制限されましたが、当初は小学校から大学まで、その対応や準備が何もできていませんでした。

教育省が20年10月に正式に、オンライン授業を始めることを宣言しました。生徒たちは学習するための資料と1週間を通して何を達成する必要があるかを受け取ります。教師、保護者、その他の関係者が連携し、新しい学習の形態が整ってきました。

フィリピンで18歳未満の子どもは、感染を防ぐため、家を出ることが許可

クリス・タパン

マニラ・サンアンドレス807

地区 コミュニティコーディネーター

私たちの地区のストリートチルドレンの教育支援のため、JAFSに応援していただいていることは、私たちにあって、とても名誉なことです。JAFSが子どもたちにする支援は、貧困線以下で生活している家族が対象となっており、とても大きな助けになります。

家族のわずかな収入からは食料を購入することが優先されるため、学用品を持つていない子どもたちばかりでした。配布中に会った子どもたちとその家族の笑顔に、彼らの大きな幸せを感じることができました。

ジェニファー・アドラワン

マニラ・サンアンドレス803

地区 コミュニティコーディネーター

コミュニティのコーディネーターとして、また教育プログラムの受益者の一人の母親として、私たちの家族と支援を受けた各家族に、大きな祝福を与えてくださったことに感謝申し上げます。

家庭には子ども向けの学習台がないので、読み書きができる学習台など、子どもが家庭でも勉強できる学用品を贈っていただき、母親として、とても

されています。最初は今までにないオンライン授業に子どもたちもなじめず、その日の授業を理解したかどうか、確認できないまま進められていきました。教師も、対面のときのようにはチェックし、指導し、支援することができません。家庭にいる両親、兄、姉たちが、子どもたちが受け取った教材を勉強し、手伝うことを余儀なくされました。

親が子どもを教えるための方法も適切に準備されていません。彼らはこの新しい状況、新しい学校教育システムに対応できない状況にありました。

教育省からの正式発表の直後、アジア社会科学院（ASI）は、教育支援プログラム対象の子どもたちに初期調査を実施しました。私たちはまず、自宅で授業を受ける子どもたちのニーズを確認しました。昨年までは学校に通うために必要な学用品を支援していましたが、新しい学習様式に合わせ調整しました。

学校で子どもたちが授業を受けるときのように、自宅にテーブルが用意され、大きな袋がランドセルとして機能し、必要な学用品を支援することとなりました。学用品以外にも、ウイルス感染から身を守るためのキット（フェイスマスク、洗浄石けん、ミルク）を支援しました。

悲しいことですが、教育支援プログラムに参加した子どもたちと家族のほ

とんどは、保健省が規定し普及させている健康でいるためのルールに厳密に従うことはできません。常にフェイスマスクやフェイスシールドを着け、アルコール、石けん、塩素を使って家をウイルスから消毒するための費用がありません。また、寝たり、食べたり、勉強したりする日常生活スペースが小さく、そこに家族が密集するため、自

勉強の目標達成へ頑張る 家族の笑顔に幸せ感じた 親にとっても大きな祝福

感謝の声届く

学用品支援を受けた子どもたちと家族らから感謝の声が届きました。

ヴァネッサ・マラピット 8年生

コロナのパンデミックによって、私たちを取り巻く状況は今まで以上に厳しく、困難になりました。私たちを継続的に支援してくださる皆さまにとっても感謝しています。

世界的に大変な状況の中、私たちを忘れずにいただけることに、とても勇気づけられ、もっと一生懸命勉強するよう、努めています。パンデミックではありますが、学ぶという目標を達成するためのモチベーションを維持し、

ダン・ガブリエル・マーティン 11年生

「ありがとう」という言葉だけでは、不十分です。私たちの家族は、生き残るために食料を購入することを優先していたので、勉強のためにお金を使うことをあきらめていました。ご支援いただいた学用品によって、勉強を続けることができます。心より感謝申し上げます。

とてもうれしかったです。皆さまからのご支援は、私たちの子どもたちと母親、その家族がもっと一生懸命働き、子どもたちが寄付者に感謝の気持ちを表す方法として、勉強することを支援し、奨励するように私たちをも力づけてくれました。

ロウエナ・R・ディアス

学習プログラムを修了すること ができたタイロン・ジェームズ

・ディアスの母親

私たちの子どもに贈ってくださった教育支援は、私たち家族にとっても、子どもが勉強するための学用品を持っているという喜びを与えていただけ、大きな祝福です。

娘は本当に勉強するのが大好きです。学習テールと学用品をいただき、「もっともっと勉強をがんばる」ととても喜んでいきます。彼女は、より良い成績を取り、将来の準備に役立つ、より多くを学ぶために、もっと一生懸命勉強すると、大きな意欲とパワーを皆様からいただいたようです。より良い成績をとることは、近い将来に彼女の夢を実現するための力になるでしょう。

本当にありがとうございました。

農村・スラムに物資を配る

コロナ禍のインドJPFの活動資金で

インド、マハラシュトラ州で2021年7月26日から11月27日まで、「新型コロナウイルス インド変異株危機対応支援プログラム」を、ジャパンプラットフォーム(JPF)の活動資金により実施しました。コロナ変異株が大流行し

て現地提携団体から支援依頼が殺到。政府の支援が行き届きにくいガッチロリ県の農村地域やナグプール県のスラム地域を対象に、食料支援、衛生啓発活動支援、医療支援をしました。ガッチロリ県では、支援を受けてい

ない高齢者や未亡人、身体障がい者、孤児が暮らす世帯など800世帯に食料を配りました。また、8つの地域で2回ずつ、学校の先生や地域の代表者、販売者、農場労働者ら定期的に多くの人々と接触する人々計2200人を対象に、ダンノ

ーラ地区ムスカ村にあるサティ病院の医師と看護師が、衛生啓発活動をしました。同県には極左武装勢力ナクサライトが活動している地域もあり、



ムスカ村で開かれたメディカルキャンプ＝ガッチロリ県

コロナ募金を続けています

JAFS事務局

電話：06・6444・0587
HP: <https://jafs.or.jp>

心美しいサイレントヒーロー

AFSスリランカ ウィジャヤ・カンナンガラ氏を悼む

JAFS事務局長 村上公彦

2021年8月17日、スリランカのAFSの指導的役割を担っておられたウィジャヤ・カンナンガラ氏が、コロナ感染により87歳で亡くなられました。心より哀悼の意を表します。

我々が「ガジローさん」と親しみを

込めて呼ぶ氏に最初に出会ったのは、本会のスリランカの提携団体であるサルボダヤを訪ねたときでした。30数年前の話です。創始者であるアリヤラトネさんから「僕の先生」と言っで紹介されたのです。気さくなおじさんという印象を受けました。イギリスで教育を受けた紳士です。

スリランカを訪れるたびに海岸近くの自宅に招かれました。最初のときの印象が強烈に残っています。あいさつする間もなくビールが出され、冷たくておいしくて、思わず「素晴らしいおもてなし」と言ってしまう

「一杯の酒杯は十年の知己を作る」と言いますが、まさにそうで、小柄で物静かですが、ひとたび

哲学や信条を語らせると意気軒高、力強い何かを内に秘めた人でした。

奥様も質素な雰囲気の中に洗練された気品を感じさせる人です。3人の子は医者を始め立派な専門職についています。皆さん熱心な小乗仏教徒です。

彼が好んで話すのは、イギリス留学時代の話でした。苦学生であったようです。十八番は、ロンドンから車で陸路スリランカまで帰って来た時の話です。1950年代後半、西欧から東欧、アラブ中近東、インドをめぐり約2カ月に及ぶ旅だったそうです。

晩年の彼は風貌が歌手の谷村新司に似てきたように思いました。彼の魂は、今頃、地上の青春時代を思い出して天上を駆け巡っておられるのではないかと思います。

サルボダヤ副代表

ラビンドラ・カンダゲ

ウィジャヤ・ビムセラ・カンナンガラ氏は、1934年4月18日に生まれました。非常に多才で精神的な人でした。シリル・ジャンス奨学金を得てパ

政府の支援が他県に比べて届きにくく、コロナ感染防止などの情報も都市部と比べると十分には行き届いていません。このような地域の住民に正しい情報や知識を提供できました。

ナグプール県では、スラム地域や農村の計300世帯に4カ月分の食料を配りました。また、スラム居住者、高齢者、女性、子どもなど弱い立場に置かれている人々計1000人に衛生啓発活動をしました。ポスターなどによる呼びかけや、現地の医師がメディカルキャンプをして、衛生習慣を身に付けて自分で健康を守ることができるよう指導しました。

また、酸素濃度計や酸素濃縮器を貸し出し、すぐに病院へ行くことができない地域住民が応急対応や感染状態の把握をできるようにしました。支援終了後も、住民が自ら健康を守るよう、病院などと連携し、濃縮酸素や酸素濃度計を貸し出しています。

良品計画がマスク16万5千枚

同時に、カルナータカ州ビジャプーリエリアへ5万セット、ナグプール県へ5千セット計16万5千枚の布マスクが(株)良品計画から支援され、4つの提携団体を通じて現地の人々へ配られました。感染予防対策に大変効果的に活用されています。

(JAFSスタッフ 坂口優)

ナドゥラのセントジョーンズ大学、モラトウワのプリンスオブウェールズ大学、ロンドン大学で学びました。

英語で一流のトレーニングを受けた教師であり、帰国後はピリヤンダラ中央大学で教鞭をとり、学生のスポーツ向上にも尽力をしました。スリランカ学校クリケット協会の書記長を務め、エリート校だけでなく様々な学校の学生が大会やイギリスへのツアーに参加できるように改革しました。

98年に教員を引退し、社会福祉活動に専念しました。2000年から10年までサルボダヤスワセタ(子どもとお年寄りを支援する部門)会長として、貧困や虐待に苦しむ人々を、多くの私財を投じて支援しました。

スリランカ全国長老評議会の積極的なメンバーでもあり、サルボダヤの国際部の活動の中心を担いました。04年、スマトラ沖大地震の津波がスリランカに大被害をもたらしたときは、リーダーとして救援活動をしました。

AFSネットワーク活動の積極的なメンバーで、多くの国際会議に出席しました。責任ある高齢者として、豊かな経験をもとに若者にアドバイスし、常に若者が変革を起こすことを奨励しました。常に他の人の向上のために100%を与えたいと思っていました。

その謙虚さは、すべての人から賞賛されています。彼の美しい魂が安らかに眠ることを祈っています。



談笑するカンナンガラ氏(左)とJAFSの村上事務局長=2018年、スリランカ、カンナンガラ氏宅

オンラインで第7回AYS

コロナ禍でできること アジアの若者らが討論

第7回アジア・ユースサミット（AYS）が2021年8月28・29両日、初のネット中継オンラインで開催されました。持続可能な地域社会づくりを担うアジア各地の若者のリーダーを育て、ネットワークを築くことを目的としています。今回のテーマは「コロナ禍で私たちができること」。世界中が新型コロナウイルス大流行という未曾有の課題に直面し、行動や生活に大きな規制や変化が生じました。この困難な状況下で高校生・ユース世代にも「自分たちにも役割がある」ことを考える機会づくりが必要だと考えました。海外7カ国9チームと日本の高校5校が計14のプロジェクトを立案し、動画で発表し合いました。入賞作5つなどの内容を紹介します。（JAFSスタッフ 熱田 典子）

内外から14プロジェクト

【最優秀賞】

読書愛好クラブ

外出が禁止され、友達との交流機会、勉強、戸外での活動の機会を失った青少年たちのデジタル機器依存になった生活を、読書習慣を根付かせることにより、「読書は人を豊かにする」のことわざのような生活を送る推進活動をコミュニティ図書館の設置とともに実施する。

【最優秀賞】

Zoom Up（ズーム活用大作戦）

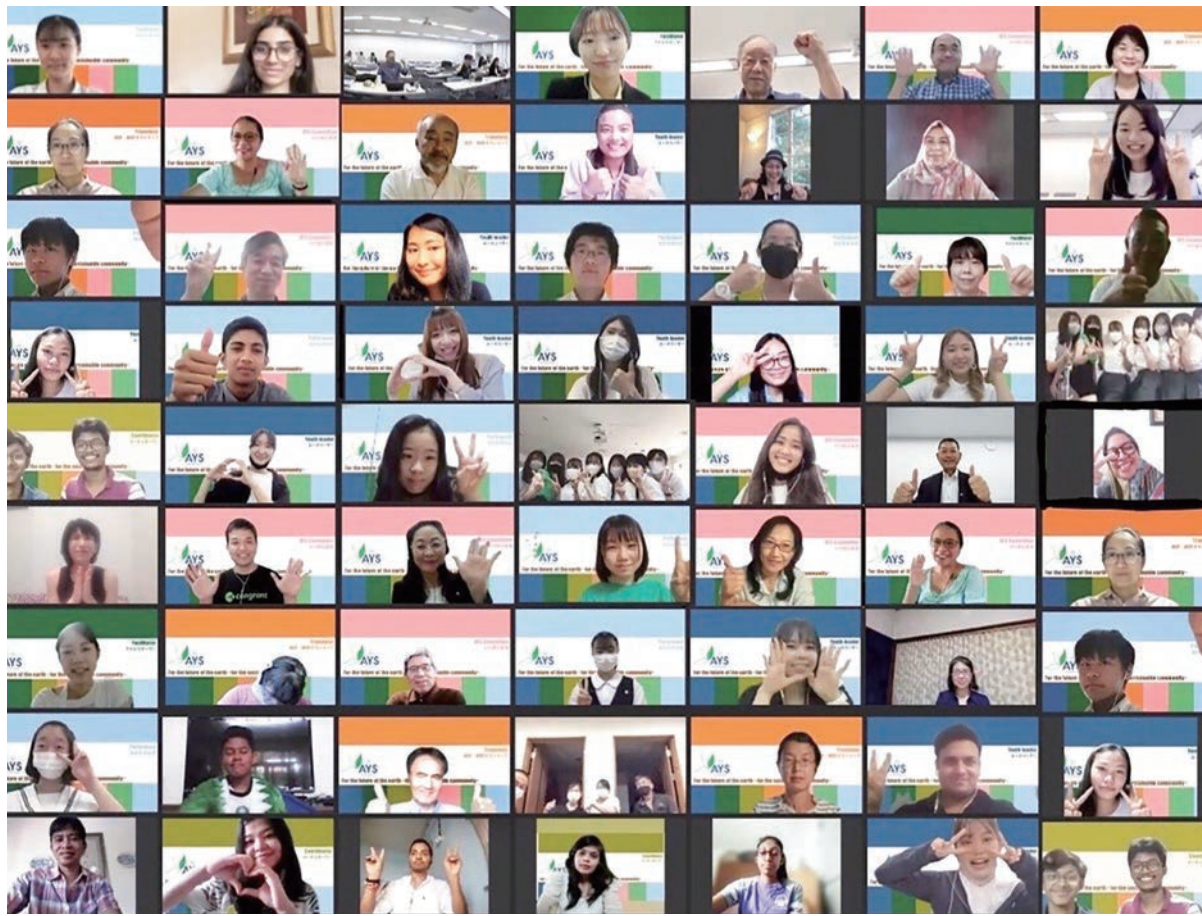
- ・学生の精神的健康の回復（バン格拉デシュの小さな町でのケーススタディ）
 ⇒ バングラデシュ
- ・チャイルド・デイベロップメント・プロジェクト
 ⇒ インド
- ・COVID-19バンデミックと闘うための啓蒙活動とコロナ影響家庭への食糧支援
 ⇒ インド
- ・ケアプロジェクト
 ⇒ パキスタン
- ・学校のハウス栽培農業学習
 ⇒ フィリピン
- ・コーヒー残渣の利用
 ⇒ インドネシア

実行へ向けて着々と準備

これらのプロジェクトを研究者や専門家に、「行動力」「繋がり」の観点から講評してもらい、プロジェクトを持続的なものにするには、単独行動ではなく、地域の住民やNGOなどにも支援を頼みながら活動を展開していく必要性があると意見をもらいました。プロジェクト発表後は、「みんなが尊重され、どのような立場の人でもいいきと生活できる多様性と環境バランスに富んだ地域社会」をAYSコミュニティと仮定し、6つの課「地域住民課」「広報課」「教育課」「市民生活課」「健康福祉課」「情報政策課」の観点から、どのような政策が打てるかを議論しました。

議論した内容をもとに、今後の各自の活動において、どのような事柄に着

デジタル障壁を打ち破れ！ネパール
コロナの影響でデジタル化が進む社会だが、40代以上はそれに追いついて



初のオンライン開催となり

画面上に集ったAYSの参加者たち

いない。若者が親世代以上の人たちにデジタル化社会に適応できる講習を行う。デジタル機器を使いこなせることが大人たちの生活の質を向上させ、新しいコミュニケーションづくりへつながる。

【優秀賞】

リモートで学ぶ学生のためのデジタルアクセス

⇒ インド

学校の閉鎖によりデジタル機器の所有が子ども、若者たちの教育格差にもつながっている。貧しい学生たちと豊かな学生たちの間のデジタル格差を減らすために、ラーニングを提供し、教育への関心度を高めることを目指す。

【優秀賞】
故郷の自然を守るために私たちにできること（「ミ拾い」）
⇒ 京都明星高校

地域住民参加型のゴミの排出削減をめざした活動。地域のゴミの現状を、コロナで増えたゴミの量にも着目しながら多くの人に知ってもらうことを目標に掲げ、不法投棄されたゴミを回収し、地元のゴミの現状把握と流布、そして解決策の考案、実行、振り返りを行う。

【オーディエンス賞】

高齢者と若者の繋がり

⇒ 関西学院高等部

学校がある地域の特徴として高齢者が多いことが挙げられる。私たちは「すべての世代の人が繋がっていて、自由に話せる社会」を理想の街と考え、コロナ禍で交流が無く寂しい生活を、オンライン交流を通じて互いを理解し合っていく。

その他の立案プロジェクトは次の通りだった。

- ・コロナスタディサポートプロジェクト
 ⇒ 学生たちに学ぶ機会を
- ・コロナ禍で私たちにできる外国人を支援
 ⇒ 神戸龍谷高等学校
- ・宍粟市（兵庫県）の地域活性化
 ⇒ 清風南海高等学校
- ・新型コロナ禍でロックダウン下にある

世界の中の自分見つける

AYS実行委員会 プログラム委員長 木村直子

今回は初のオンライン開催でしたが、過去の回に劣らない実り多いものでした。特徴や意義を3つ記します。

1つ目は「気軽に参加できる国際交流」。英語が苦手な学生のサポート、参加者の文化的・宗教的背景への配慮など、皆が楽しめる工夫があります。

2つ目は「アジアの同世代との意見交換の機会」。AYS最大の強みです。自分の地域の課題解決に向けて意見交換し、行動に移します。

ここから得られるのが3つ目の「アイデンティティの確立」。地域の中の自分↓日本の中の自分↓アジアの中の自分と、枠を広げながら複眼的に内省するきっかけになります。そのような若者を育てるのが大きな意義です。

明日のサポート役を担え

ユースリーダー 立住 空

2回目のユースリーダーとして参加し、準備や高校生との議論を通して新たな考えやスキルを身につけ、再度成長しました。多くの高校生がAYSで新しい考えや文化に触れ、自分の世界を広げるきっかけとし、次はユースリーダーとしてサポート役を担うことを望んでいます。AYSの仲間とこれからも繋がっていくことを願います。



HP: <https://jafs.or.jp/ays/about.html>（上左）

Facebook: https://www.facebook.com/Asia-Youth-Summit-101956422179264/?ref=page_internal（上中）

Instagram: @ays_asiayouthsummit_jafs（上右）



日本語スピーチコンテスト各賞の皆さん。左から優秀賞の韓笑さん、奨励賞のカトヤル・シャモリエさん、観客賞のピライボン・ヌンマさん、審査委員長、最優秀賞のホアン・トイ・リンさん＝2021年10月3日、クレオ大阪中央

最優秀賞にホアンさん（ナム）

14人が参加し第2回日本語スピーチコンテスト

査の結果、ベトナムからのホアン・トイ・リンさんが最優秀賞に輝きました。

最優秀賞のほかに、優秀賞に韓笑さん（中国）、奨励賞にカトヤル・シャモリエさん（インド）、観客賞にピライボン・ヌンマさん（タイ）が選ばれました。

最優秀賞に選ばれたホアンさんのスピーチ内容を紹介します（見出しは、内容に則して編集部が付けました）。

震災のときも助け合う日本人の優しさに感動

ホアンさんのスピーチ

本日は日本に来て感じたことについて発表します。

皆さんはベトナムについてどんなことを思い出しますか。「とっても暑い国」ではないでしょうか。ベトナムには季節がない町が多く、日本のような四季はあまりありません。南部の有名な町であるホーチミンは1年中（気温が）30度を超えます。

このような国から来た私は、日本の四季の美しさにとっても感動しました。春には桜の木の下で花見ができます。夏には色々な文化を体験できる祭があり、秋になると山やお寺で真っ赤な紅葉を楽しめます。冬になれば雪が景色を真っ白に変えてくれます。1年中美しい景色に感動することができます。

私はこれまで何度も日本人の優しさに助けられました。留学生なら誰でも日本に来てから困ったことが絶対にあると思います。皆さんは日本の生活に慣れるまでに日本人に親切にしてもらったでしょう。日本人はいつも相手の気持ちをよく考えてくれてまるで自分の家族のようにとっても暖かい愛情を与えてくれます。

私は現在、エール学園の国際コミュニ

ようこれからがんばっていきます。

日本への深い愛とひたむきさ伝わる 講評

審査委員長 實 清隆

第2回の今年は、コロナ禍がまだ終息しない中での開催となりましたが、前回の倍近い14名もの参加者を得て、観客を含めて約50名が集いました。多

岐にわたった発表テーマに共通していたのは、日本への深い愛であり、日本語習得へのひたむき姿勢がひしひしと伝わってきました。

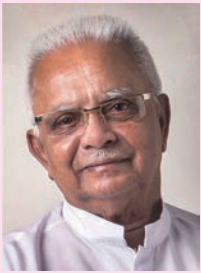
最優秀賞に選ばれたホアン・トイ・リンさんは、日本語の表現力が優れており、特に東日本震災についての言葉が審査員の共感を呼びました。優秀賞の韓笑さんは日本の文化を取り上げ、ユーモアたっぷりの表現力が評価され

ました。奨励賞のカトヤル・シャモリエさんは、日本語の語学力が高く、日本で日々感動した情景をわかりやすく伝えていました。観客賞のピライボン・ヌンマさんは、子どもたちが家の近くの公園で安心して遊んでいる姿に感動した様子を表情豊かに述べました。

出場者が多く、発表時間が5分という制約になりましたが、皆、精一杯、工夫している姿に好感が持てました。

明るく未来へともに行動を

サルボダヤアリヤラトネ博士からメッセージ



A F S ネットワークの仲間で、アジア最大のNGOといわれるサルボダヤ（スリランカ）の創設者、A・T・アリヤラトネ博士「写真」が90歳を迎え、J A F S に連帯のメッセージを寄せてくれました。内容を要約して紹介します。

近年の急速に変化するデジタル環境では、チャットグループやオンラインコミュニティに参加することで、つながりを築いたり維持したり、孤独を和らげたりできます。

しかし、J A F S は対面で話し、ボランティア活動で協力し合い、取り組むことを推進しています。単に寄付者として行動するので

はなく、アジアの貧困緩和を使命とする人間に思いやりと関心を持って活動することを大切に考えています。水、環境、健康、貧困、教育、文化的多様性の促進等、具体的活動を通して世界の争いをなくし、貧困緩和を働きかけていきます。

ボランティアは市民社会の基本的な構成要素です。それは人類の最も

高貴な願望「すべての人々の平和、自由、機会、安全、正義の追求」を生き返らせます。グローバルゼーションと絶え間ない変化により、世界はますます小さくなり、相互依存し、複雑になってきています。

J A F S は、コミュニティの価値観と伝統が維持され強化されるように、個人とグループの行動を熱心に推進しています。活動の中で、人間の潜在能力を最大限に発揮しながら学び、成長しながら、権利と責任を行使することができます。同時に、世界は混乱を経験しており、友情を促進し、ボランティア活動はすべての社会の不可欠な要素なのです。

数十年にわたるサルボダヤ運動とJ A F S の関係は、健全でより強く愛情深いものです。村上さん（J A F S 事務局長）は私の単なる仕事の

パートナーではありません。親愛なる兄弟で大切な友です。今、世界は多くの挫折に苦しんでいます。J A F S は友情を通じて平和と調和を促進し、模範となる活動を展開しています。変化を前向きにとらえ、困っている人々のためにできる活動について考え、行動しています。

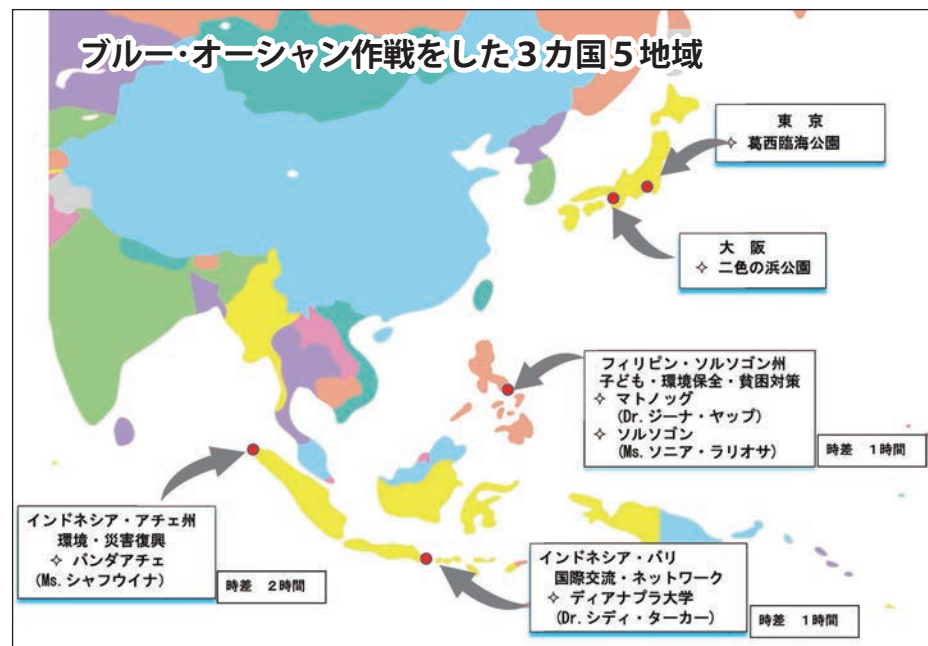
J A F S とA F S の仲間の誠実な努力を通して、私たちの未来がより明るくなることを願っています。

アリヤラトネ博士 1931年11月5日生。高校教師だった58年に労働奉仕の分かち合いキャンペーンを実施。貧しすぎず豊かすぎない社会を目指し、「真実と非暴力」の基本理念をもとにサルボダヤを設立。世界の民衆の自立を目指して活動している。マハトマガンディー平和賞、庭野平和賞、マゲサイサイ賞等を受賞。80歳の誕生日はスリランカの特別な休日として全国的にお祝い集会が開かれた。

日本、フィリピン、インドネシア同時開催

1国だけでは解決できない海洋プラスチック汚染にアジアの国々が連携して取り組もうと2021年11月20日、日本の大阪と東京、フィリピンのソルソゴン州マトノグ、インドネシアのアチエ州バンダアチエとバリ島の3カ国5地域で、時差を超えて同時に海辺のごみ拾いをしながら、オンラインで国際交流しました。

世界中からプラスチックごみが海に流出しています。残念なことに、8割以上がアジアからと言われています。流出量上位に私たちがAFSネットワークの国々もあがっています。アジアでの取組みは重要です。私たちのネットワーク力を生かせば、大きな力を発揮できます。自分たちだけでなく、国を超えて同じ時間に同じ活動をする仲間がいると実感することが出来ます。互いに力が湧き意欲が高まります。Zoomを使って各地の活動を中継し、フェイスブックで活動の様子を報告してもらうなどして、互いの情報をシェアしました。各会場から届いた報告を紹介します。



東京・葛西臨海公園

大阪・二色の浜公園



プラごみ一掃 ブルー・オーシャン作戦

大阪・二色の浜公園（貝塚市）

子どもからシニアまで、予想を大幅に上回る93名が参加しました。JAFS会員以外の方も多く、法人会員の榎OSGコーポレーションなど会社ぐるみの参加もありました。散歩していた近所の方の飛び入りもあり、海洋プラスチック問題への関心の高さを感じました。

プラスチックごみ45袋、それ以外のごみ45袋が集まりました。遠目にはきれいな浜に見えましたが、大人数で拾い続けると、たくさんのごみがありました。ゴムボート、ビニール傘、釣り竿まで。海で碎けた小さなプラスチック片も砂の上にたくさんありました。長年にわたるプラごみの蓄積があること、小さく碎けてしまうと回収が大変なことを、実感しました。

「体験して知ること『自分ごと』として考えるきっかけになりました」「一見きれいに見えてもたくさんのごみがあり、終わりが無いなと思いました。今まで以上に少しでも減らしたいという考えにつながりました」などの感想をいただきました。

（JAFSスタッフ 川本裕子）

東京・葛西臨海公園（江戸川区）

子どもから大人まで41名のご参加。榎OSGコーポレーションを始め会社ぐるみの参加もありました。プラごみ19袋、それ以外13袋のごみを拾いました。ペットボトルキャップやタバコの吸い殻が多くありました。護岸の石畳の隙間には、至る所にプラスチックの破片が挟まり、終わりのない作

業に思いましたが、皆さんの取り組みで、見違えるようになりなりました。

また、おそらく世界初ではないかと思いますが、デジタルツールを駆使して海外とオンラインでつなぎ、リアルタイムで各国の状況を見ながら一緒に清掃をしました。国境を越えた一体感やつながりを感じることもできました。多くのお子さんにも参加してもらい、世界の現状と環境を守る意味を感じてもらえたと思います。

参加者の皆さまから次のような感想をいただきました。「想像をはるかに超えるゴミの量」「思った以上にゴミ拾いが大変な作業だと実感しました。ガラス片が多く拾いにくく大変だった」。

（JAFS関東 端無勝、川崎隆二）

フィリピン・マトノグ

ルソン島の南端の3つの村にまたがる長い浜辺で行いました。東端にはマトノグ川の河口があり、上流から、土砂や天然物、プラスチックごみを含む家庭ごみなどが海に流れ込んでいます。近くは海藻の繁茂地とサンゴ礁になっており、浜辺をきれいにすることで生態系も守られます。

ごみ拾いには百名余りが参加しました。地域の結束力が感じられ、若者も多く参加してくれました。トラック5台分のごみを回収しましたが、川の上流からの天然物が多くありました。海辺の住民が処分できないごみを砂浜に埋めてしまうことがあり、砂から突き出ていたごみは掘り出して集め、今後は埋めないように話し合います。



フィリピン・マトノググ

インドネシア・バンダアチェ



インドネシア・バリ島

オンラインで連帯
3カ国5地域をインターネットのZOOMでつなぎ、参加者たちがお互いの活動ぶりをリアルタイムの画面で確かめ合った



た。ペットボトルは、ほぼ毎日拾ってくれている人がいるようで、思ったより少数でした。今回の活動を通し、問題意識を共有すれば、地元の人々が協力して行動してくれることが分かりました。今ままで一番きれいな浜辺になりました。

(AFS ソルソゴン ジーナ・ヤップ)

インドネシア・バンダアチェ

自然の美しい村の浜辺でゴミ拾いをしました。ここは限られた人に使用を制限しているの、訪れる人は他の浜辺ほど多くありません。それでもプラスチックゴミがあります。周辺住民や学生などのボランティア計30名が参加し、27袋分のゴミを拾いました。8割がプラスチックゴミで、ほとんどがペットボトル、ストロー、飲料水カップでした。ごみは、州都バンダアチェのごみ収集センターに運びました。ごみの管理や浜辺をきれいに保つ学習もしました。テレビのニュースに取り上げられました。

この活動が村人によって今後も続くことを期待します。浜辺や海をきれいにする活動は、どの地域へも広がられます。海は地球の天国であり、私たちは海でつながっています。(AFS アチェ シャフウイナ)

インドネシア・バリ島

デンパサールの南に位置する2つの川の合流点にあるマングローブ林でのごみ拾いでした。学生15名、漁業者10名が参加。漁業者がカヌーを貸し出してくれました。最初に漁業者グループのリーダーから、

マングローブ林の保全について話がありました。海中に生えるマングローブの根に絡みつくプラスチックごみを、カヌーに乗って回収するという大変な作業。若い力がんばりました。約40本のマングローブの木から、約300kgのプラごみを回収し、市の清掃業者に引き渡しました。飲料ボトル、レジ袋や買物袋、食品や飲み物の容器、発泡スチロール、釣り糸などでした。併せてマングローブの苗木50本も植えました。今後も続けていきたいと思っています。

(AFS ディアナプラ大学 シディ・ターカー)

◇インドネシアの2地域での活動の様子は上の二次元コードでご覧いただけます。

将来はぜひワークキャンプも

同時にごみ拾いしながらオンライン中継、という挑戦的な試みには課題がいろいろ見つかりましたが、インドネシアのアチェから「バナナの葉に食事を載せて休憩中：」など声が届き、アジアの国々で一緒に取り組んでいることを、少しでも感じてもらえたのだと思います。このような小さなことか

ます。これが海へのプラごみ流出量上位の理由の一つです。そんな中、自ら立ち上がって、海や地域をきれいにするごみ拾い活動に取り組んでいるAFSの仲間たち。

今後も今回のような海岸ごみ拾いを続け、コロナ禍が明けたら、アジアを訪れるごみ拾いワークキャンプも企画できたらと考えています。現地でごみの現状を実際に見て、拾い続けなくて済むような根本的な解決、衛生的な生活環境づくりのために何かできることはないか、アジアの人と共に考える機会にもできたらと思っています。

(JAFS スタッフ 川本裕子)

齋藤医師から エールの便り

本誌147号で紹介した、鹿児島県の下甕島^{しもゐしじま}の下甕手打診療所長、齋藤学^{しんがく}さんから、ブルー・オーシャン作戦にエールの頼りが届きました。

◇東シナ海に浮かぶ甕島^{しもゐしじま}。中国と韓国



下甕島 手打湾の海開き = 2021年6月20日

手打湾を診療所の屋上から綺麗にみることが出来ます。いろんな方々が、率先してゴミ拾いをしています。海開きの前日に、島内放送でゴミ拾いのお知らせがありました。島の方々は、その前日から、各々ゴミ拾いをしていました。自分たちの海、そんな思いが詰まった手打湾を毎朝掃除する人が多いのは、当たり前なのかもしれません。

(下甕手打診療所長 齋藤学)

途上国では財政的に余裕がないため、国や自治体によるごみ施策が後回しになり、日本のようなごみ収集の定期的な仕組みさえない地域も多くあり

村人も井戸掘りを手伝い

この村では全戸が農家です。トイレがある家は村の2%のみで、ほとんどの人は木陰で用を足しています。井戸が完成する前は、村にある池の水を使用していました。水くみは家族全員の仕事で、多くの村人が1日に2～3回、池まで徒歩で水くみに行っていました。池の水が干上がると、水売りから水を買っていました。井戸ができたおかげで、家の近くで衛生的な水が手に入り、生活は本当に便利になりました。村人4名が井戸掘りやその周囲の整備を手伝いました。



【寄贈者】坪内かずよ様

タケオ州トレアン郡スレチヨローク村
受益者…34人（7世帯）
井戸の形式…露天式（深さ28m）

【寄贈者】株式会社ユニコーン様

井戸のおかげで健康不安が減った

タケオ州トレアン郡スレチヨローク村
受益者…50人（10世帯）
井戸の形式…露天式（深さ23m）



523人154世帯が住む村です。村人は皆農民です。トイレがある家は村の2%だけで、他の人々は家の近くの森で用を足します。井戸が完成する前は、村にある池の水を使用していました。池の水が干上がると、水売りから水を買っていました。また、約25%の村人は水を煮沸して飲んでいましたが、他の人々は衛生に関する情報がなかったため、下痢などの病気によくかかっていました。井戸ができて健康面でも不安が減りました。5名の村人が井戸掘りに協力しました。

学校で水が飲め手を洗える

【寄贈者】株式会社ウォーターネット様

この小学校には地域のタンクにつなげられた水道がありますが、そのタンクへの水供給が十分でないため使えないことが多くありました。学校で必要な水をくみに、日々川や泉まで歩いて行くことは困難なので、校長は学校の衛生状況の改善と安定した水供給を求めています。この度のご支援により必要な水が確保できるようになったうえに、新型コロナウイルス感染防止の衛生確保のために活用することができます。地域の人々の健康を支えることにもつながり、一同感謝しています。



ソルソゴン州マトノッグ町ツガス村ツガス小学校
受益者…生徒133人、教師7人
井戸の形式…ポンプ式

いのち
生命の水 うるおす未来

井戸の寄贈にご協力ください。あなたの力がアジアの人々の命を助けます。ご寄贈者に完成報告書、写真、パネル写真を届け、現地の井戸に、ご寄贈者のネームプレートを設置します。

■井戸1基の建設に必要な費用■（2018年4月現在）

インド=60万円 フィリピン=33万円
カンボジア=28万円 スリランカ=22万円
ネパール=17万円（パイプライン=25～150万円）
バングラデシュ=浅井戸22万円、深井戸55万円

※5年間のメンテナンス費、現地管理費を含む概算です。※現地資材費高騰により費用を1割増に変更させていただきます。ご理解ご協力をお願いいたします。

■お振込み先■ ・郵便振替 00960-6-10835 アジア協会アジア友の会
・三菱UFJ銀行大阪中央支店 普通1968711 公益社団法人アジア協会アジア友の会

詳しくはアジア協会アジア友の会
06-6444-0587へ

安全で衛生的な水を確保できないアジアの地域に井戸ができて生活基盤が整い、自立へ一歩踏み出せるようになりました。ご寄贈くださったみなさまに感謝申し上げます。

みなさんのおかげで
井戸ができた村

水くみ労働が減り生活向上

この村では全員が農業に従事しています。トイレは全戸にありますが、家の近くの木陰で用を足すことも多いです。村人の多くは、日に2～3回歩いてため池に水をくみに行き、飲料水として飲む際は、一度沸騰させていますが、下痢などの病気にかかることも多いです。水くみは家族全員の仕事でした。荷馬車の水売りからも水を買っていました。新しい井戸が近くにできたので、水くみ労働が減り、水を買う必要もなくなって、生活が向上しました。



【寄贈者】オムロン労働組合様

タケオ州トレアン郡ブレイスルック村
受益者…33人（8世帯）
井戸の形式…露天式（深さ21m）

【寄贈者】オムロン労働組合様

水を買わなくて良くなった

全ての村人が農業で暮らしています。これまで村人の多くは、日に2～3回歩いて水をくみに行っており、水くみは家族全員の仕事でした。水を飲む際は、一度沸騰させて飲んでいました。しかし、家にトイレがあるのに近くの木陰で用を足すことも多く、また多くの村人が健康面をあまり気にしていなかったため、下痢などの病気にかかることも多くありました。水売りからも水を買っていましたが、大きな負担でした。新しい井戸が近くにできたので、生活が改善されました。

タケオ州トレアン郡ブレイスルック村
受益者…21人（7世帯）
井戸の形式…露天式（深さ21m）



村中に行き渡る豊富な水

630世帯が暮らす村に露天式井戸とポンプ式井戸が1つずつしかなく、夏になると水が干上がっていました。そのため村人は、2km先の川まで歩いて水をくまなければなりませんでした。以前も井戸を作ろうとしましたが、地中の石が妨げとなり、水脈まで掘り進めませんでした。今回は井戸掘りがうまくいき、村全体に十分な水が行き渡るようになりました。夏も水を確保でき、1家族（5～6人）あたり1日約400リットルの水がくめるようになり、村人の生活が向上しました。



【寄贈者】佐藤 高 様

マハラシュトラ州ガッチロリ県ヒクシー村
受益者…370人（95世帯）
井戸形式…ポンプ式（深さ約60m）

【寄贈者】佐藤 高 様

マハラシュトラ州アムラワティ県ドウルガナガル村
受益者…280人（70世帯）
井戸の形式…ポンプ式（深さ約60m）



ルール決めて自分たちで管理

この村の人々は主に公衆便所の掃除の仕事に従事しています。村人は地区の水道を使いますが、蛇口数が少なく利用できるのも短時間だったので、水を求めて列に並ぶ必要がありました。完成した井戸は電動ポンプ付で、いつでも水をくみ上げることができます。村人は、井戸を長く使用するためにルールを決めました。①使用は飲料・料理用のみ、②電気代は村人たちで出し合い支払う、③メンテナンスはすべての人が一緒に行う。これらのルールのもと、管理・維持します。

【寄贈者】京都暁星高等学校様



シンドウパルチョーク郡インドラワティ村9地区
受益者…30人（5世帯）
井戸形式…集水式水道パイプライン（小規模）

水を得て農業への士気高まる

山間地で近くに湧水があり、長年その水で生活をしていました。しかし2015年の地震以後、年々湧水量が減り、乾季になるとその水では生活が成り立たなくなりました。そこで2km先の水源を新たに地域の水として使用するため、小規模パイプラインを敷設しました。この地域の人々は祈祷師として地域の祈祷医療に以前は従事していましたが、現在は農業が生活の術となっており、今回の支援により水を確保ことができ、農作物栽培発展への士気が高まっています。

【寄贈者】北海道湧別高等学校様



ウバ州バドゥラ県ライディマリヤダ地区
受益者：45人（12世帯） 井戸形式：露天式（深さ約5m）

周りに木を植えて井戸を守る

長年、安全な水が飲める井戸を待ち望んでいた村人は建設にとっても協力的で、専門的な作業以外は多くの村人がともに働き、井戸周辺のプラットフォーム作りや道路整備をすることができました。皆で井戸が清潔に保てるよう、心がけています。子どもたちが中心になって、井戸の周りに、水を保持し浄化する力のある木々の植林も始めました。木々を育てることによって、緑多い土地をよみがえらせ、井戸の水を枯らさず、土砂崩れなどの自然災害からも村を守ってくれます。

【寄贈者】スリランカサルボダヤの会様

ウバ州バドゥラ県バドゥラ地区
受益者…125人（27世帯）
井戸形式…露天式（深さ約6m）



井戸ができた村

安全な水で感染予防

井戸が完成したことで、近くで安全な水が得られるようになり、皆喜んでいました。新型コロナ感染が都市部から農村部に徐々に拡大し、不安な日々ですが、村ではサルボダヤによる衛生教育や感染予防講習が繰り返し行われ、井戸の水によって、それを実践することが可能になりました。学校や仕事、移動など、生活面ではまだ制限が多くありますが、井戸のおかげで村で暮らすことができ、心より感謝申し上げます。井戸の水を守っていくために村に組合が作られ維持管理されます。

【寄贈者】株式会社国元商会様

ウバ州バドゥラ県カラヒチヤワ地区
受益者…48人（14世帯）
井戸形式…露天式（深さ約6m）



干ばつ時も枯れない十分な水

この村には飲料水として適する井戸はなく、また昨今の気候変動により干ばつが頻繁に起こるため、水をいかに得るか、村の人たちは毎日悩まされていました。この度、ご支援いただいたことにより、干ばつ時にも心配せずに水を得られる井戸が完成しました。村の中で十分な水が得られることは初めての体験であり、村人みんなとても喜んでいました。井戸の水を使って新型コロナ感染予防にも取り組んでいます。村人が安心して暮らすことができました。

人々の優しさに心洗われた

物を大切にリサイクル

ネパール報告
中島 彩華



ナマステ（こんにちは）。2020年11月にネパールへ渡航し、はや1年が経ちました。今回は、駐在して感じたネパールの魅力をお伝えしたいと思います。

ネパールを好きになった理由にまず、人の優しさが挙げられます。私がネパール駐在員となった理由は、JAFSが行っているシンドウバルチョーク郡インドラワティ村10地区での水インフラ設置と農業支援事業に共感したからだけではなく、海外の現場で実際に住む人々と一緒に働き、日本と現場の橋渡しをしたと思ったからです。しかしコロナ禍で出国が延びるうちに、この状況下で、一人海外で働くことに少し不安を感じていました。

そんな中、離陸直前の飛行機の中で、一人の現地スタッフがメッセージをくれました。「ネパールで孤独に感じることはないよ。私たちがいつも、

一緒に仕事をして支えてくれたAFS
ネパール事務所のメンバーと。左から
2人目が筆者＝カトマンズ

あなたのためにいるから」

ネパール人は、つながりをすごく大切にします。友人の友人は自分の友人でもあり、家族のように思うと本当の家族のように接します。彼女は、私が心細さを感じていることに気付いたのか、自分たち、そして家主のビマラさん一家がネパールでの家族だと元気づけてくれました。

出発前からネパール人の温かさを感じた私ですが、ネパールで生活していると毎日、人の優しさに心が洗われるようでした。

例えば、道を尋ねると、訪ねた相手だけでなく、その周りにいる人が最低3人は反応してくれます（本当に3人も！）。5ルピー札（約5円）を落としたとき、わざわざ追いかけて届けてくれることもありました。また、自分の健康や幸せを祈るよりも、家族や大切な人を想い祈るお祭りが沢山あることにも、心がほっこりしました。

ネパールは、まだまだ豊かな国ではありません。ですが、他人を思いやる気持ちは、日本よりも豊かだと感じま

した。

他にネパールに魅せられた理由の一つに、ネパール人の物を大切にする姿が挙げられます。

ネパール人は、しっかりと資源を再利用します。例えば、ティクアウトをした際の容器やカトラリーは洗って保管し、再利用します。未使用の紙ナプキンも捨てずに保管します。昔の日本でもそうであったように、ヨーグルトや牛乳、野菜果物は必要な分だけの量り売りです。今の日本では、商品に付属する資源を再利用する人や、裸の商品の量り売りを買い好む人は少ないのではないのでしょうか。

最近、京都で、食品だけでなく調味料や洗剤などの量り売りをするお店に伺いました。消費者は自分の必要なものを必要な分だけ購入し、購入時の容器も自分で用意するか、お店のリサイクル品を使用します。資源を大切にすると、ネパールで再認識した行動が、京都の例のように、より多くの人々に広まってほしいと思います。

ネパールはもちろん、エベレストをはじめとした山々や、美しい棚田、湖といった観光地も魅力的です。しかし、人や資源を大切にし、私たちが忘れがちな基本的なことを教えてくれる人々が、それ以上にネパールの魅力ではないのでしょうか。

女性参加をポスター作って訴え

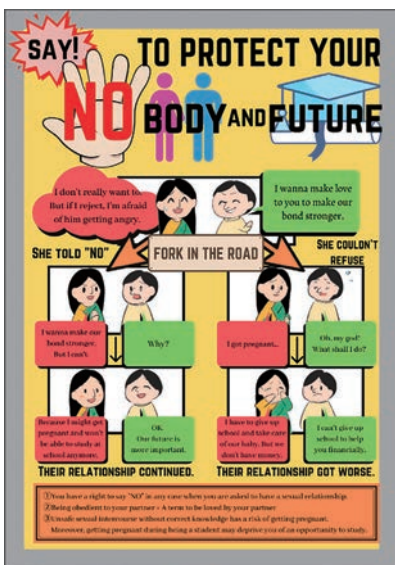
ネパールでの水インフラ事業は終盤に差し掛かっていますが、本当の意味で女性・男性が共に地域を作り上げるには、ジェンダー＝性に対する考え方がまだ壁になっているようです。「どうしたら解決できるか、考えがまとまらない」との相談がAFSネパールからJAFSに寄せられました。

事業地は前から女性参加が少ないことが課題で、女性参加率の目標を50%以上としていました。このインフラ整備の直接事業には各集落から女性リーダー1人が参加することとを、強制に近い形でやっと実現できたそうです。

AFSネパールのスタッフは現地の若い女性から「高校で男子のスポーツクラブは認められるが、女子は認めてくれない」

「高校以上の進学を家で認めてくれない。大学で専門的な勉強をしたい」などの相談を受けることが増えました。

そこでJAFSは、ジェンダーの課題に役立ちたいと希望してインターンシップに参加している日本の大学生に、現地の人たちから聞き取りをしてもらいました。問題の背景を探り、何をすべきか決めようという狙いです。2つの要因が浮かび上がりました。



①息子選好と教育格差 社会経済活動や教育で性別役割分業的な考え方が強く、女性が離脱してしまうことが多い。制度や法の整備も不十分で、識字率や初等教育就学率に大きな男女格差が残っている。将来家に残って親の面倒を見るのは息子や息子の妻で、他家に嫁ぐ娘はメリットがないと多くの人が

が考え、息子にお金をかけて育てる傾向がある。

②不十分な性教育 学校の授業で性についての話題を扱うことを教師が避ける。家庭でも親と子が性についての話をすることはほとんどない。若者の間ではインターネットが性に関する情報源となっている。

自己決定権を持つ女性の割合が低いことも、背景にあるようです。

国連人口基金（UNFPA）の20

21年の報告によると、性交渉の誘いにノーを伝える／避妊を決定する／健康管理に関して決定するの3つの権利をすべて行使できている女性は、ネパールでは48%にとどまっています。あまり公になっていませんが、結婚前に妊娠し途中退学する女子が多いことも地方では問題であると聞きました。

自分自身を大切に考えると同時に、異性のことを大切に考えることの大切さを皆が理解することが必要ではないか——と状況を理解し、啓発のためのポスター＝写真＝を、インターン生が中心となって作りました。

「性交渉で『ノー』を聞き入れない人は、あなたにとって良きパートナーなのか」などと、現地の人にとって少しショッキングな表現もありますが、注目を集めることによって一人でも多く関心を持つてほしいというのが、携わったスタッフ一同の願いです。

先の各集落から選ばれた女性リーダーたちは、当初は積極的でなかった人も多くいましたが、事業のトレーニングを重ねて新しい知識を得ることができ、多くの人が積極性を身につけ、リーダーであることに誇りを持つようになっています。そのような変化を村全体のムーブメントとして起こすことができれば、誰もが住みよい地域になる、とAFSネパールは期待し、この啓発活動に取り組んでいます。

（JAFSスタッフ 熱田 典子）

新入会員ご紹介

ご入会感謝申し上げます。（敬称略・50音順）

2021年9月1日～11月30日

●社員会員
上田高久／大石みどり

●維持会員
岡田芳明／川添稔／高瀬みよ子／坪田由紀子／中尾巧／平田實／廣敦子／宮山聡

●賛助会員

会費納入者、寄付・物品協力者

温かいご支援ありがとうございます。（敬称略・50音順）

2021年9月1日～11月30日

なお夏季・冬季募金へご協力くださった方につきましては、
1年後の夏季・冬季に別紙で報告させていただきます。

●社員会費
明見勝好／池田直樹／井上勇一／岡本圭司／小原純子／小原孝彦／中嶋啓子／永島智子／中西武雄／ナリンダーシンセティ／萩尾千里／服部道代／古谷裕子／松浦正

●維持会費
浅尾佐江子／安宅義人／石若達弥／市川秀一／伊藤ヒサ／伊藤義人／井上邦子／上田慎子／植田延江／植村茂／植村ルリ／宇田喜美子／宇野和子／岡村遍導／岡本就介／沖田耕一／沖田哲男／小野孝博／片岡伸介／壁谷桂子／河合忠和／河口正隆／川那辺操／北村真澄／木下四朗／近藤恵子／櫻井眺美／佐藤高／佐藤根恵美／澤村和子／品木吉明／嶋崎貴行／清水総代／白國哲司／仙野和子／高岸弥生／高瀬みよ子

稲葉秀子／近藤允伸／佐藤美千代
●法人賛助会員
やすふく内科クリニック
●里親会員
根上真依／ピグマリオン学院奈良教室／三宅詩佳

辰巳桂子／谷阪洋子／田村京子／辻井昌子／辻本栄一／辻本選手／辻本智美／出口和子／手束光子／戸田恭子／富永たけ／永江敦子／中尾和子／中尾巧／中野為夫／桂子／中橋康治／真由美／永原幹男／中村哲治／中村正憲／中山康夫／西野節子／野井洋正／橋詰英子／橋本芳樹／原田佳子／平田寛／廣敦子／福岡仁／藤井いずみ／藤田高淳／古谷佳世子／堀内弘嗣／前田恵／前田安太郎／三島明美／水城実／水上成彰／溝口治／溝淵むつ躬／三林春子／宮田奈美子／宮野京子／向井宏之／武藤三代子／宗形充弘／安田勝／矢野浩美／山地尚枝／湯浅禎也／吉田清史／吉田樹央

●賛助会費
秋元千佳／足立暁／荒谷静／生駒晴代

／石田功夫／石山光子／市川晃／伊藤恵理／稲葉秀子／井上千湖／井上美穂／井上順子／岩岡幸衣／大塩節子／大丹生あい子／岡光子／お母さんの地球学校／小笠原達治／岡田能里子／越智和子／角谷道子／片田欣三／加藤朝子／金田修治／鎌田重明／神谷尚孝／岸野亮淳／喜多樂子／北野与志江／北原祐司／木下直美／杏野泰之／久保真太郎／久保井一匡／黒木昭子／後藤安子／後藤泰子／小西紀代美／昆田香／近藤蒼／近藤秀子／近藤允伸／近藤湊／斉田真理子／佐々木健児／ゆみ子／佐藤美千代／澤田薫／設楽宏幸／庄子幸子／新羅和子／菅洋子／鈴木通文／瀬戸井初恵／相馬隆人／田中愛子／田中敏弥／田中啓／田邊政子／谷山美和子／種井法子／田村まき／辻本栄太郎／土屋りつ子／堤祐子／坪田秋成／永井勝也／中川由美／中川亮／中島彩華／永菅裕一／中谷良二／中西貴子／中西美代子／中西佑介／中野通／中村滋／西川久美子／新田留美子／野村水香／長谷川美穂子／花崎能理子／馬場順子／細喜世多／林祐己／原のり子／春木眞巳／福岡陽子／舟崎和誠／堀内登久子／本多隆久／前原良光／松居安佐子／松田和子／松田健志／松原悦子／松本沙耶香／三野野哲／三木あゆ子／皆笹信二／南光子／南出和余／宮本益見／三好和香子／村上五郎／孟劭卿／森原尚子／安富睦／八束庸子／山下玉英／山下良一／山本宏昭／横田健／吉岡久江／吉川英昭／吉田靖

●法人賛助会費
㈱ウォーターネット／大阪府連合会／㈱OSGコーポレーション／㈱公益社／中西産業㈱／バナソニック㈱コーポレート戦略・技術部門CSR・企業市民活動担当室

●里親会費
明見勝好／浅香真理子／荒谷静／飯田

美／澤田武憲／塩月裕朗／四國うどん讃岐路／霜島正／正傳寺和田康圓／正法地由紀子／新羅和子／瀬尻芳子／外崎宣宏／岡田佳子／高島純子／高美時郎／多胡恭子／田中裕江／田中静枝／田中壽美子／田中里菜／谷口和代／谷口陽子／谷阪洋子／玉木町子／長克宣／辻本選手／坪倉幸弘／手束光子／道明寺双葉会／戸田恭子／中島和子／中島綾／中谷誠／那須トラピスト修道院／西川龍夫／西田京子／西原智珂子／西村節子／布川理紗子／寝屋川国際婦人クラブ／島山ひろみ／浜口啓子／濱田美恵子／姫野佐智子／廣澤悦子／(学)広島女学院ゲーンズ幼稚園／深田晃／福西宗子／藤川敦子／藤原明朗／藤原和子／藤原克彦／藤原正昭／藤原増子／古谷佳世子／別府浄照／舩松志津子／細川憲和／細谷詩子／(株)ボックス／法花敏郎／堀内静／堀内弘嗣／堀口節子／本庄紀子／常念寺本田享道／前田みどり／前田美保子／前田泰子／松岡利成／松本勝正／水野礼子／水本裕子／宮古聖／コブ教会／宮野谷篤／妙代和也／森崎律子／森田康代／森本榮三／森山正明／八木健次／数内資子／山口かをる／山口汎正／山下玉英／山下良一／山田英里名／山田穂積／山野和子／湯浅洋子／横井明子／吉江久子／吉田恵子／吉田宏／吉村千賀子／脇家崇夫

●インド・H・V子ども家族支援会費
JAFSいのちの会校方／苗村登美子
●コスモニケタン指定
二反田静子
●チャイルドアカデミー指定
辻本選手

●ネパール・ピトゥリ支援会費
大谷英一／大谷臣子／小川幸子／倉光和之／小松朱美／佐藤美千代／前田美

津代／前田豊／宮本博幸
●ネパール地震被災者支援
饒平名知幸
●ネパール学校建設支援
福永有花／横田美智子
●フィリピン農漁村支援
岡本佳子
●フィリピン障害者支援
末永雅典
●フレンドシップ基金
旅は道連れ会
●フレンドシップ国際基金
石原基義
●ブルーオーシャンプロジェクト指定
大本和子／ブルーオーシャン作戦参加者
●地球幸せ募金
小代利子
●助成金
○ネパール地震被災地植林
（公社）国土緑化推進機構
○パングラデシユ植林・環境教育
日本労働組合総連合会「連合・愛のカーナ」

●新型コロナウィルス緊急募金
○アジアの子どもたち支援・国内留学
生支援

哲雄／伊藤恵理／梅田祥仁／大須賀不出子／大原映子／岡光子／越智和子／角谷道子／加藤朝子／鎌田勝江／鎌田重明／北野与志江／北原恵美／北原祐司／木村依江／古賀旭／児下美恵／佐藤理香／JAFS松原／白神博子／田尾茂・ますよ／高橋恵／武内彩／竹田由美子／田中愛子／田中和子／谷山美和子／チャリティショップKANAU
／辻本選手／東代清隆／中谷良子／中橋康治／真由美／中山忠愛／西原智珂子／西山美菜子・千晶・敦記／長谷川美穂子／細喜世多／姫野佐智子／藤原克彦／増田愛子／水野礼子／南大阪教会／三好和香子／武藤英利矢／武藤三代子／山下由起／吉田暢子／和田幸子／渡部司

●一般寄付
熱田親憲／池田直樹／大久保洋子／大阪松下幸之助経営を学ぶPHP友の会／小原純子／栗村壽子／三枝瑞恵／櫻井紘哉／篠原勝弘／ソフトバンクつながる募金／チャリティショップKANAU／辻本選手／富松英二／永島智子／藤原正昭／古谷裕子／眞砂哲志／宮野谷篤／村上公彦／森本榮三／吉田暢子

●井戸指定寄付（募金箱より）
のこ美容室／饒平名知幸
●井戸指定
大山行雄／蛭名健仁様、加奈子／角英樹／中尾巧／山敷敦子

●井戸積み立て
(株)H2Oサンタ／岡部雅子／JAFSぞうすいの会／延原修
●井戸一基建設支援
○ネパール
エーゼル(株)／京都暁星高等学校／菅原直樹／松並淳／吉田幸子

浅井聡子／浅沼暁子／浅野直人／荒川正嗣／有田稔／池田ミオ子／池田美奈子／井坂猛／伊奈徹／岩田悦子／岩本郁子／晴地道俊／大分明星幼稚園／大須賀不出子／大谷タカコ／大野篤一郎／大橋一同／大山行雄／岡智恵子／小笠原和久／岡田経子／岡田麻理／沖田哲男／奥田京子／奥村佐二郎／小野豪臣／小野恵大／小野寺知子／加賀敦／香川泰子／梶谷阿久里／(株)カステロ／粕谷香代子／勝沼深／加藤喜代子／鎌田重明／上村みちえ／川西秀樹／川村忠／菊池哲也／岸本玲子／吉祥院嶽盛和／三木下良子／木村征代／木村依江／清原浩子／久保桂子／久保佑治／栗山拓／小出裕司／後藤理紗／小林仁美／斎藤美美子／坂本任司／佐藤正明／佐藤美千代／沢田博／三本松三津江／塩川裕朗／設楽宏幸／正法地由紀子／勝楽寺前原英彦／新谷百代／新羅和子／菅原直樹／円通寺菅原芳徳／鈴木千草／聖霊奉侍布教修道女会／高島純子／高美時郎／田口裕子／竹田由美子／武本和子／田中静枝／田中裕江／AvioaDaniel／谷口倫子／谷口陽子／谷阪洋子／地本英子／手束光子／寺井春夫／藤間孝子／中川咲子／中島和子／中嶋啓子／中島裕子／中島綾／中塚鞠子／中野秀治／中野為夫／桂子／西田貞之／西原智珂子／西原八重子／西本悦子／丹羽和子／根津千枝子／萩野肇／萩原節子／島山ひろみ／畑中義雄／羽田孝彦／林宏直／林越洋子／原史子／原田和幸／姫野佐智子／廣澤悦子／(学)広島女学院ゲーンズ幼稚園／福西宗子／藤原明朗／藤原克彦／藤原増子／船戸康夫／麓忠司／古谷佳世子／坊上信子／法蔵寺／細川憲和／堀内静／堀内弘嗣／堀口節子／本庄紀子／本間耕一／前田美保子／前田泰子／松生孝子／松岡利成／松田高志／松野光伸／水口正樹／水野久子／溝口清子／宮古聖／コブ教会／宮野谷篤／宮本由貴／宗像千代子／村田恭仁子／森川佐和子

世界水の日 特別企画

JAFS未来をうるおす「水」写真コンテスト 作品募集！！

暮らしや旅先の様々なところで感じた「水」への想いを、自由な感性で応募願います。

応募テーマ：

「水と私たち」～水への感謝 水とくらし 水とこども 水と環境 水と文化 等～

応募方法：メール (asia@jafs.or.jp 宛) にて、件名を「水」写真コンテストとし、①氏名、②e-mailアドレス、③写真（データ）をお送りください。

注意事項：・作品の写真はデータでお送りください。・データは5～10MBの解像度のものをおすすめします。・応募できる作品は一人2作品までです。・被写体の肖像権など、他社（団体）の諸権利を含む作品のうち、権利者の承認を得たものに限り。・未発表のオリジナル作品に限り。

応募期間：2022年1月20日（木）～2月20日（日）

結果発表：厳選な審査を行い（予選通過作品を3月20・21日にJAFSが入居する肥後橋官報ビル8階で展示、オーディエンスによる投票実施）、選出された20作品は3月22日（火）の「世界水の日」にJAFSホームページに掲載されます。

●物品・日用品・食料品等
木村千鶴／高橋美也子／中西豊次／春重祺子／本庄紀子

●集めるキャンペーン
宇田和博／姫野佐智子

国内外のさまざまなイベントをHPに載せています。記事についてのお問い合わせはJAFSへ。裏表紙にアドレス、連絡先



国際協力活動、社会貢献活動、SDGsなどに取り組む官民の団体が一堂に会する国内最大級のイベント「グローバルフェスタJAPAN」（外務省、国際協力機構≡JICA、国際協力NGOセンター≡JANIC共催）が2021年10月9・10両日、2年ぶりで開かれました。

例年は東京・お台場海浜公園に飲食・物販ブースが立ち並び、10万人以上の来場者でにぎわっていましたが、20年はコロナで中止となり、今回は規模を縮小し、東京国際フォーラムに会場を移してリアルとオンラインで行われました。展示とステージ発表のみで入場制限もあり、参加者は来場者とオンライン合わせて2日間で1万357人とのことでした。

J A F S 関東は飲食ブースでベトナム風汁麺のブン・スオンを提供し、多くの方に来ていただき好評を得ていました。今回は展示のみ**写真**で残念でしたが、オンラインでアジア・ユースサミットの報告をすることができました。また、11月20日に3カ国5カ所同時にライブ配信しながら行う予定の海ごみ拾いのチャシを配りました。

私は今まで飲食ブースを担当し、展示は他の方に任せきりでJAFSの活動について詳しく知らないことが多かったのですが、今回展示ブースに立ち、にわかながら改めて、40年以上にわたるJAFSの歴史と、長年の活動から得た経験の蓄積、アジア各地との交流・ネットワークの深いつながりを感じることができました。また、国際支援や環境問題に関心のある来場者や他の出展者からも色々話を聞くことができ、新たな交流や情報を得られたことも良かったです。

来年はまたぜひバン・スオンを提供することができ、JAFSの活動もより広めることができるよう願っています。

(J A F S 関東活動委員 森山 涼子)

「寺は石山、仏は如意輪」と清少納言が「枕草子」にも書いている西国三十

れ、地区会メンバーの方々のご協力も
得て、楽しい歴史散歩になりました。

(JAFS 会員 伊藤 勝)

第3期アジア市民大学スタート

第3期JAFSAアジア市民大学が
2021年10月9日、加藤千洋さんの
講座から開学した。新型コロナの影響
で、予定より1カ月延期となったが、
当日は30名ほどの受講者があり、満員
御礼となった。写真。

加藤さんは、朝日新聞社の北京特派員、アジア総局長、中国総局長、外報部長、論説委員、編集委員として長年、深くアジア、とりわけ中国と関わってきた。今回は、現在、世界が最も注目している「米中」争覇について講じた。

この日は、1949年の中華人民共和国の発足から、歴史的に中国の動向を、米中関係を軸に年表を掲げ、毛沢東の文化大革命、鄧小平の改革開放、習近平の「一帯一路」戦略について、それぞれの「名言」を披露しながら、わかり易く語った。

最近、中国の経済成長が米国をしのがんばかりの兆しを見せ始めていることや、ペンス米前副大統領の対中強硬発言、バイデン米大統領の対中戦略などを紹介。クアッド（＝日本、米国、豪州、インドの首脳や外相による安全

保障や経済を協議する枠組み）、オーストラリア（豪州）、英国、米国3国間の軍事同盟）の動向、さらに、日中の経済協力・日米同盟のバランスなどについても問題提起した。

現在、中国では、大手の不動産開発会社・恒大集団の破綻・バブル崩壊が危惧され、台湾へ軍事侵攻する可能性もある。来年の講座が待ち遠しい。

第3期JAFSアジア市民大学は22年3月まで、原則として毎月第2・4土曜日に開催します。詳しくは、当会のホームページをご覧ください。

(JAFS理事・)

アジア市民大学学長 實（清隆）

カンボジアとインドの 留学生招き交流茶話会

J A F S 高槻によるカンボジアへの井戸寄贈募金の目標達成を記念して2021年10月30日、アジア人留学生との交流茶話会が開催されました。J A F S による現地活動報告の後、関西国際大学のカンボジア人留学生、ソン・ソピヤディビットさんと、立命館大学大学院のインド人留学生カトヤル・シャモリーさんが、それぞれの母国の観光名所や慣習、食文化などを話してくれ、参加した皆さんも熱心に質問していました。写真。

紫式部の石山寺を訪ねる



なにわ西地区会では、インドの学童・女性支援に協力するため、「まいど！大阪おもしろツアー」で大阪各地を巡るチャリティウォークをしたり、由緒ある神社・仏閣などを巡る歴史散歩などを催して、活動資金を得ております。10月16日には「歴史散歩・大津建部大社と紫式部の石山寺」を行い、地区会メンバーを含めて十数名が参加しました。

建部大社は、近江国の一之宮で、日本最初の千円札に神社本殿と日本武尊やまとたけのみことが描かれていました。その後、瀬田の唐橋を渡り、バスで石山寺に行き国宝の本堂や多宝塔などを散策しました。石山寺は、紫式部が「源氏物語」の構想を練ったところで有名です。また、



お話の中で印象的だったのが、カンボジアの500リエル紙幣の裏に、日本政府のODAによって建設された橋が描かれていることでした。カンボジアと日本のきずなを象徴するもので、日本の政府支援やNGOなどの活動が現地の人々に感謝されているんだなと実感し、うれしい気持ちになりました。今後、海外支援にとどまらず、国内においても留学生や技能実習生への支援や交流を活発に行い、日本とアジアのきずながいっそう深まることを期待します。

(JAFS 会員 古井紀行)

幕末・明治維新の伏見と酒蔵を歩く



JAFS京都地区会では、コロナウィルス禍が少し落ち着いてきた状況の中で、実施可能な行事から始めて行くこと、の思いで、幕末・明治維新の伏見と酒蔵を訪ねるチャリティーウォークを

2021年11月13日に開催しました。当日は、好天に恵まれ、ガイドを「伏見の魅力広め隊」のボランティアガイドの伊藤さんと江崎さんをお願いしました。三密を避けての屋外行事と

いうことで、14名の参加者には、スタート前に検温とマスク着用をお願いしました。

近鉄桃山御陵目駅前に集合し、御香宮神社へ伏見奉行所跡へ魚三樓へ銀座発祥の地碑へ本願寺伏見別院へ神聖酒蔵へ黄桜記念館へ電気鉄道発祥の地碑へ西岸寺へ寺田屋へ写真へ長建寺へ大倉記念館を巡り、それぞれの地にまつわるお話を聞きながら約4時間ウォークを楽しみました。

伏見は、豊臣秀吉が伏見城を築き、江戸時代には参勤交代の要所である宿場町として栄えました。明治維新の際には新政府軍と幕府軍が戦った鳥羽伏見の戦いの地となり、時代時代の主要地となりました。その時代の足跡を残す神社仏閣や、石碑を巡りながら案内していただきました。

また、伏見の地は古くから豊富な地下水が湧出しその水を使つての酒造りも盛んな地であり、併せて酒蔵も見学させていただきました。

見学会終盤の大倉記念館では大倉酒造・月桂冠の銘酒の利き酒も堪能し、ほろ酔い気分で全員無事に近鉄桃山御陵前駅までたどり着きました。

JAFS京都地区会では、コロナウィルス禍の状況を見ながらですが、私たちの支援を待っているアジアの子どもたちへの継続的な支援に向けて、活動を進めて行ければと思っています。今後とも、皆さまのご支援ご協力をよ

ろしくお願いいたします。

(JAFS京都地区会 辻賢二)

ネパールの魅力とごみ問題を知るオンラインツアー

ネパールの魅力や現地の課題（ごみ処理について）を知ってもらうことを目的としたオンラインツアーを2021年9月27日に開催しました。約20名が参加し、ネパール・クイズや現地の様子をまとめた動画、現地スタッフとのQ&Aを通して、ネパールに対する理解を深めました。

この企画を通して私は、様々な人とともに一つの企画を作り上げることの相乗効果を体験することができました。当初は現地スタッフとのQ&Aのみを考えていましたが、動画を制作したり、実際にネパールに滞在していたJAFSスタッフが登壇してくれたおかげで、現地の状況をより鮮明に、かつ内容の濃い企画を作ることができました。

参加した方からも「ドローンを活用した映像によって、現地の状況が良く分かった」「久しぶりに現地の様子を目にできて、早く行きたくなった」と感想をいただきました。

(JAFSインターン 中根杏)

編集後記

1 年ぶりにヒマラヤを眺み自然の広大さを感じ、雨期の増雨による土砂崩れ後を確認し自然の変異を感じ、オミクロンに自然の脅威を感じながら締めくくった2021年。22年は心から自然に感謝できることを願う。(典)

2 年は、恵まれないアジアの人たちへのご支援ありがとうございました。新しいトラ年、心新たに、阪神タイガースと共に、アジアで苦しんでいる人たちの支援をよろしくお願いします。(金)

色の浜での海ごみ拾いに参加してくれた小学生の感想文。「インドネシアとフィリピンも同じ時に海のごみひろいをしていたそうです。カップラーメンのようきをつけたそうです」。ちゃんと伝わってた！(川)

ののめ ころのうみにて汽笛鳴る。こころよ 起きよ 目を醒ませーコロナ禍でパツとしない年明けに、中原中也の詩を胸に刻んでいます。詩碑は生まれ故郷・山口市の湯田温泉にあります。(敏)

高齢者の運転事故続発に東京の息子は「早く免許返納したら」。でも、郊外に住む老夫婦には何かと便利な車。「そろそろお買い替えを」の誘いも。視力減退を横目に半世紀超の運転歴をいつ閉じるか、思案の日々。(督)

環境コラム

電気自動車とウユニ塩湖

ウユニ塩湖。波のない浅い水面が地平線まで広がり、空や人を上下対称に映す「天空の鏡」として知られるボリビアの塩湖。ここが実は、電気自動車(EV)と強いつながりがあると初めて知りました。EVのリチウムイオン電池に使われるリチウムの宝庫。塩水からリチウムが採れるそうです。

ガソリン車の生産を廃止してEVに切り替える動きが始まりつつありますが、テレビで報道されるたびに、大学生になった息子が「リチウムなんてレアメタルで資源枯渇の問題もあるし、電気自動車を手放してそんなに推進して良いのかな…」と言います。論拠を調べたことは無いけど感覚的にそう思うと言うので、私も調べてみました。

日本ではリチウムは全量輸入で、8割がチリのアタカマ塩湖から。現在、世界のリチウム生産量の7割は塩湖の塩水由来で、3割が鉱石由来ということです。金属なので、てっきり鉱山から採掘すると思っていたが、主には、塩田のような蒸発池で塩水を天日濃縮し、食塩など他の塩が析出するのを除去しながら、最後まで溶けたまま残るリチウムの濃縮液を作って精製するのだそうです。アンデス地方には大小100を超える塩湖が存在し、中でもウユニ塩湖は、埋蔵量が世界最大とのこと。ただし雨季があるため天日濃縮しにくく、また不純物が多いため精製に高度な技術が必要で

入会ご案内

皆さまが会員となつてサポートして下さることで、安定した活動計画ができます。継続した活動をしていくためにも、ご協力をお願いいたします。

A. 維持会費	年額1口	12,000円 (月額1,000円)
B. 賛助会費	年額1口	6,000円 (月額600円=振込手数料含む)
C. ジュニア会費 (高校生まで)	年額1口	1,000円
D. 団体会費	年額1口	20,000円
E. 法人賛助会費	年額1口	50,000円
会費・寄付の振り込み先		
郵便振込 00960-6-10835		
三菱UFJ銀行中之島支店 普通1007011		

冬季募金お願いいたします

旧年中は様々にご支援いただき、ありがとうございました。新年を迎え皆様のご多幸をお祈りいたします。アジアの友も幸せに過ごせますよう、12月にお送りしました「冬季募金」へのご協力をよろしくお願い申し上げます。HPからクレジット決済でもご寄付いただけます。



募金にご協力をお願いします

アジアの安全な飲料水がない地域で
貧困に苦しむ人たちを支援する活動に使われます

郵便振替 00960-6-10835 アジア協会アジア友の会

編集・発行：公益社団法人 アジア協会アジア友の会

〒550-0002 大阪市西区江戸堀1-2-14 肥後橋官報ビル5階

☎ 06-6444-0587 FAX 06-6444-0581 E-mail asia@jafs.or.jp

URL: <https://jafs.or.jp> Facebook: <https://www.facebook.com/JAFS.NGO/>

2022年1月 148号 発行人：篠原勝弘 編集人：村上公彦

広報企画委員長：法花敏郎

編集アドバイザー：松本 督、黒沢雅善

編集スタッフ：熱田典子、大本和子、柿島 裕、金井英夫

川本裕子

印刷製本：あさひ高速印刷株式会社



Accountability Self Check 2012



HPもご覧ください

コロナ対策の物資配布で、もらった食料キットを頭に載せて運ぶ女性。インド、マハラシュトラ州ナグプール県。4（11ページ）に特集「コロナ禍の中で⑦」

◀表紙の写真 3カ国5地域が協力して同時に行ったブルー・オーシャン作戦。インドネシア、バリ島では、海中のマングローブの根に絡みついたプラスチックごみを、参加者がカヌーに乗って回収した。16（19ページ）に記事